

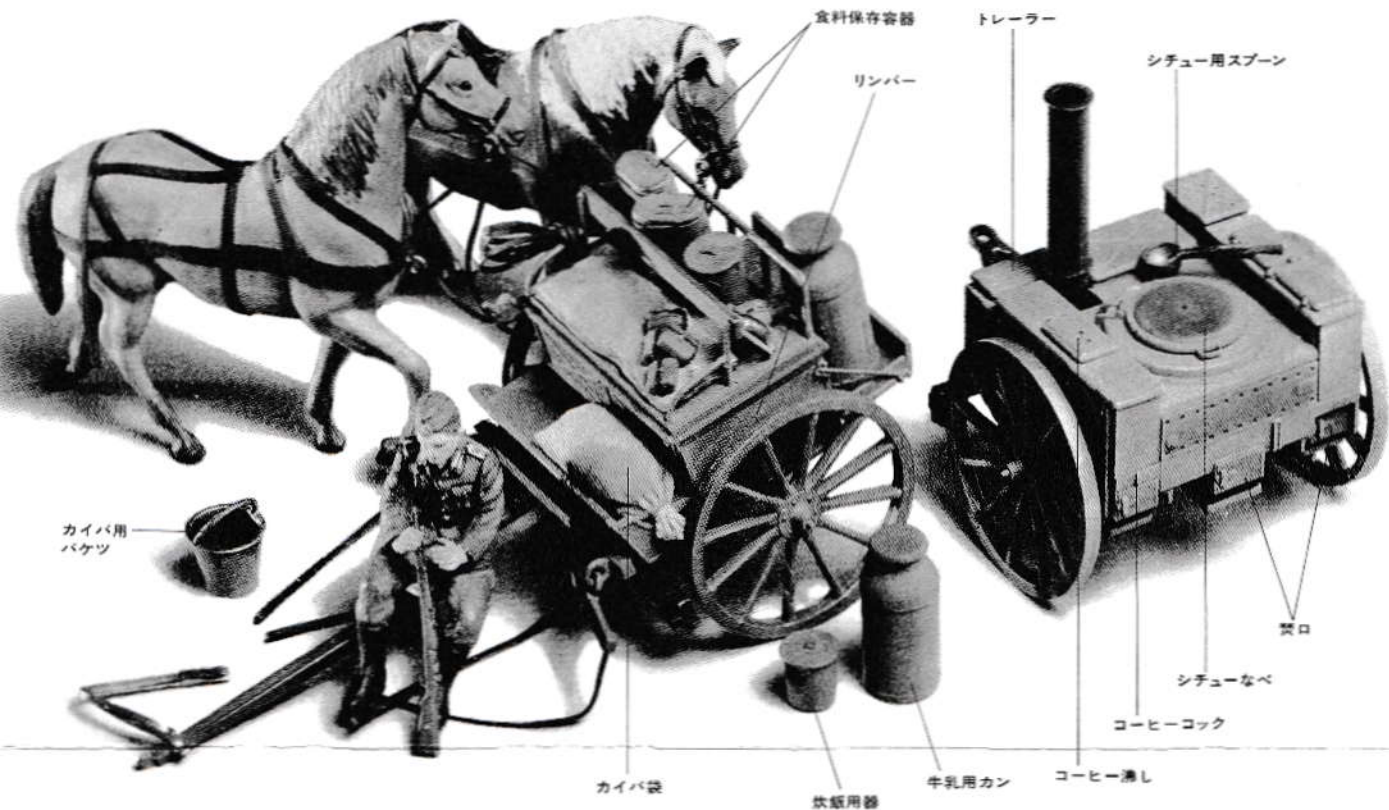
GULASCHKANONE GERMAN FIELD KITCHEN

ドイツ・フィールドキッチンセット

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.103



静岡市恩田原3-7 千422-8610



第2次大戦中のドイツ国防軍の食事は、将軍から一兵士にいたるまで内容的にはほとんど変わらないことで有名でした。その内容は、戦史家バウル・カレルが著書《砂漠のキツネ》の中で「アメリカ軍は今大戦で、終始、第一線のGIにまですごいメニューを提供した。おがドイツ軍の炊飯部隊は、実質的な下宿人料理を出した……」と書いているように質素なものでした。

このドイツ軍の質素な下宿人料理の基本は、パンとバター（またはヘット）、それにシチューといってもよいほどこってりとしたスープでした。特に最前線の東部戦線で何にも増して必要だったのは、酒、それに温かいスープとコーヒーだったと言えるでしょう。

フィールドキッチン（移動野戦炊飯車）は、この用途のために、ドイツ軍で広く使われた野戦用の重要な装備でした。通常2頭、時に4頭の馬で牽引され、歩兵部隊など機械化されていない部隊で主に使われました。リンバー（前車）とそれに連結されるトレーラーから成り、リンバーには調理材料や非常食が積み込まれます。トレーラーは車輪がついた調理台とも言いえるもので、大型のレンジが組み込まれ、大きなシチューなべやコーヒー沸しが配置されています。このフィールドキッチン1台で、120名から220名分の野戦食を作ることができましたが、パンやソーセージ、缶詰などは後方の補給部隊から支給されました。またリンバーは、調理の準備ができるとトレーラーを切り離して身軽になり、新しい材料の入手など

に出かけたのです。なお機械化部隊用には、トレーラーの車輪を取り外して架台をつけ、トラックの荷台に載せたタイプのももありました。

フィールドキッチンの主要部分は、実際の煮焚きをする装置を組み込んだトレーラーであり、その中心となるのは大きなシチューなべとレンジと言えるでしょう。シチューなべは容積200リットル、安全弁付きの2重底圧力なべとなっていて、内なべと外なべの間には特殊な液体が入れられ、内なべの加熱を均一化すると共にコゲつき防止にも役立っていました。また高い保温能力を持つことになり、煙が発見されるのを防ぐために後方で煮焚きしてから前線へ移動して温かい食事を提供することが可能でした。一方、レンジは、なべの安全弁が蒸気で開くと空気の供給が断たれて火が消えるようになっており、燃料の節約がはかられていました。燃料は、石炭、コークス、豆炭、まきのどれでも使えました。シチューなべの横には90リットル入りのコーヒー沸しがおかれ、専用の蛇口がついて、ふたを開けずにコーヒーをとり出すことができました。そのほか、オープンも備えられ、これらのレンジは焚口は別ですが、煙はシチューなべの下を通過して後方の1本の煙突からまとめて排出されます。

戦うための装備は、各国の国力や国民性をよく表現していると言えますが、特にこうした戦場の裏方的な装備にはそれがいっそう明らかに現われ、興味深いものがあると言えるでしょう。



作る前にお読み下さい。

★キットの組立てに入る前に必ず説明書を読んで全体の流れをつかんで下さい。

★キット中には馬具用のプラ板が入っています。原寸図に従い切りとり馬にとりつけます。

★部品をランナーから切りはなす場合には手でもぎとらずに、ニッパーやナイフで切りとって下さい。

★接着剤を少なめに使うことがきれいに仕上げるコツです。

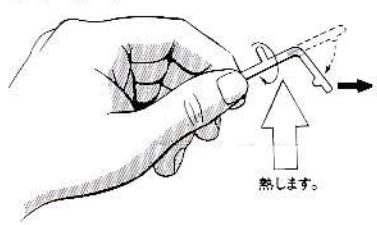
●このマークは塗装指示のマークです。全体の塗装や馬の塗装は箱絵や箱側面に描かれた絵を参考にして下さい。

《人形のくみため》

★右腕はどちらか選んでとりつけます。



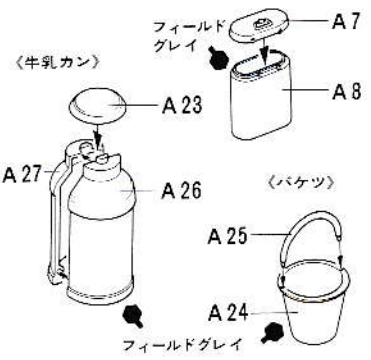
《ムチの作り方》



★ランナー（枝）を利用して上図のようにまわしながら熱して、やわらかくなってから火から離し、端を持ってゆっくりひっぱると細くなります。動かさずに15秒ぐらい冷したら5cmの長さに切ります。

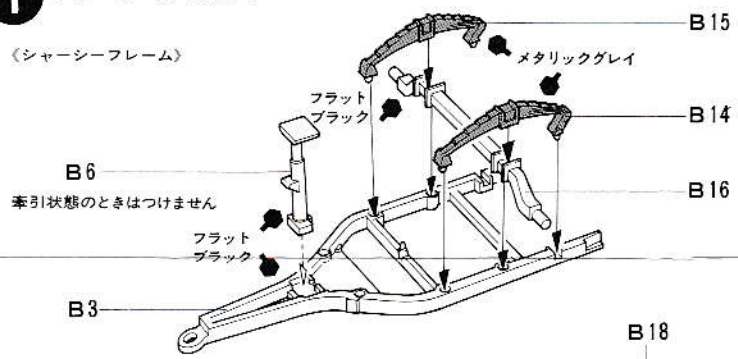
《アクセサリパーツのくみため》

《食料保存容器》

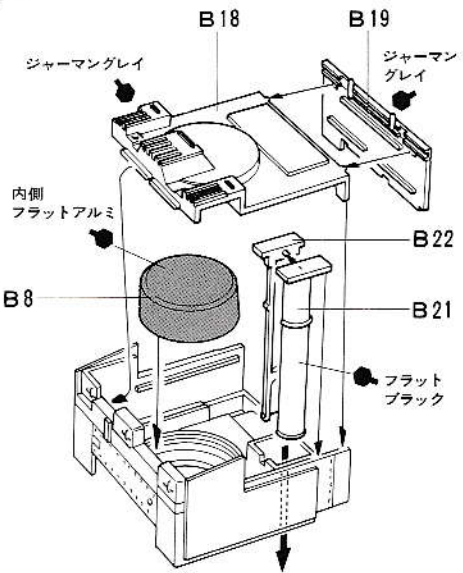
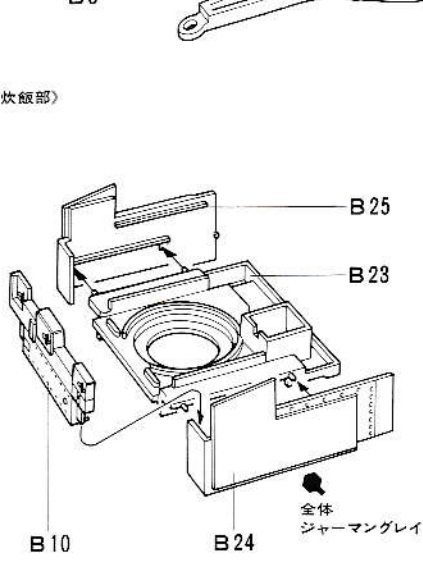


1 トレーラーのくみため

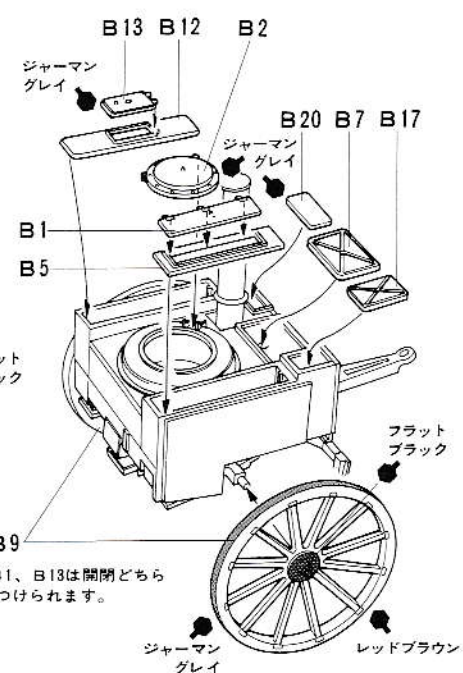
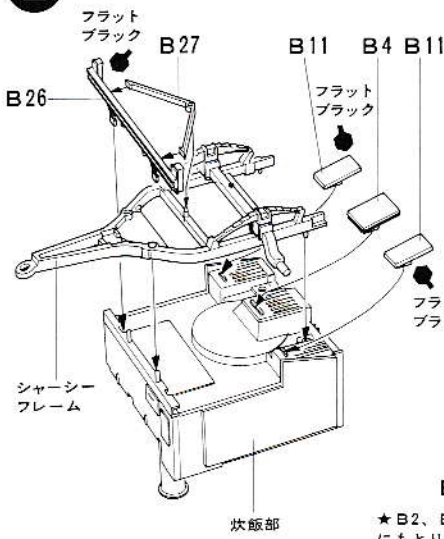
《シャーシーフレーム》



《炊飯部》

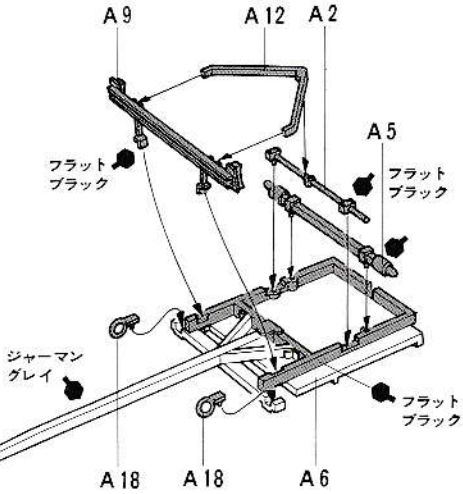
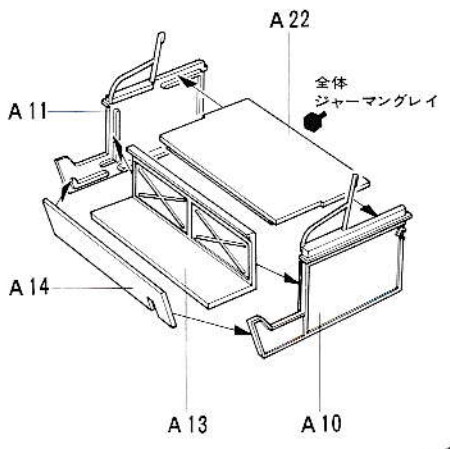


2 車輪のとりつけ



★B2、B1、B13は開閉どちらにもとりつけられます。

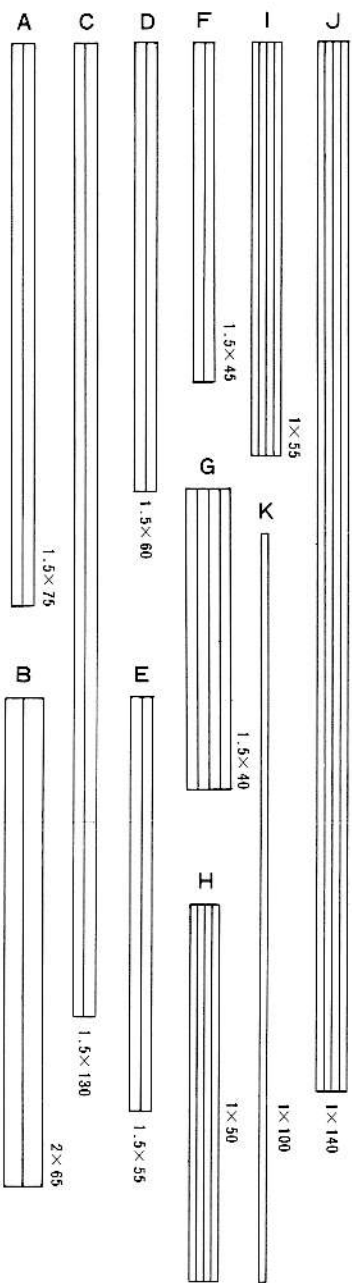
3 リンバーのくみため



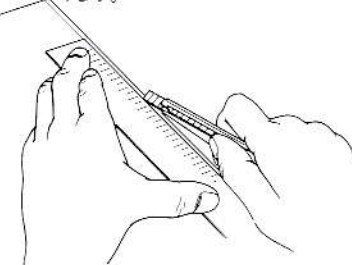
《馬具のとりつけ》

下の原寸図の寸法に切り使用します。

2頭分 (単位mm)



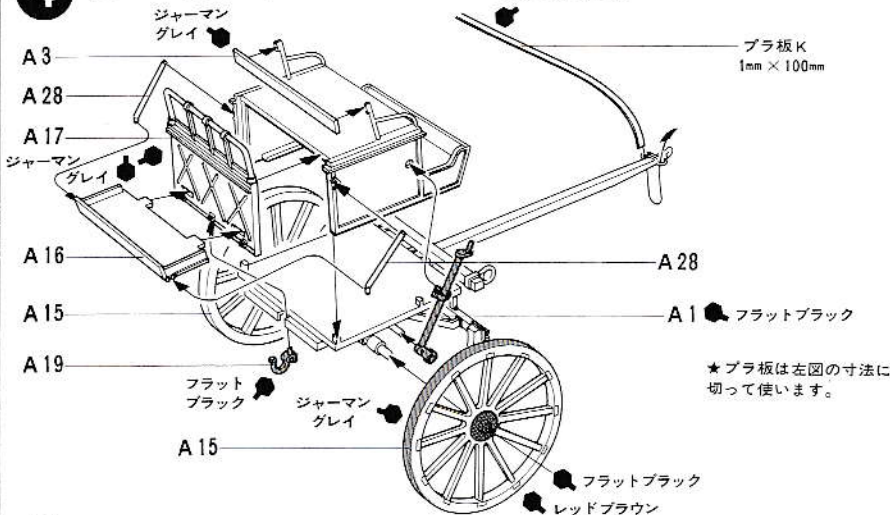
★ プラ板を原寸図の寸法にあわせて切りとります。



★ Aから順にプラ板をはってゆきます。

⑦を参考にはって下さい。

4 リンバーのとりつけ

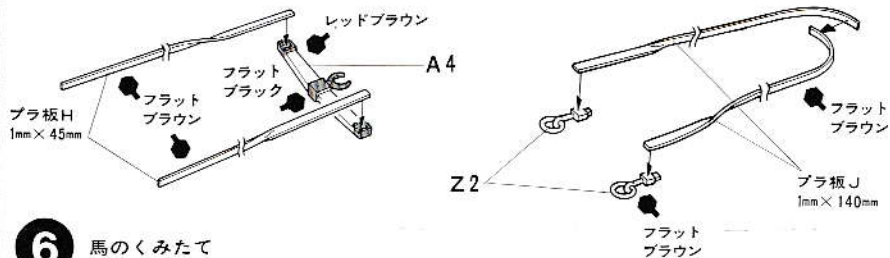


★ プラ板は左図の寸法に切って使います。

5 たずなの工作

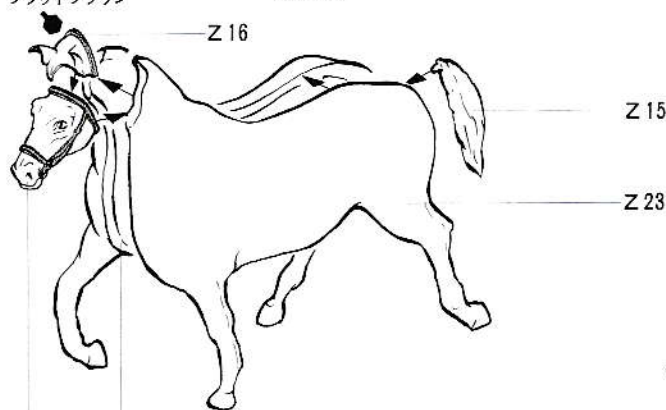
《連絡棒》 2個作ります

《たずな》 2本作ります

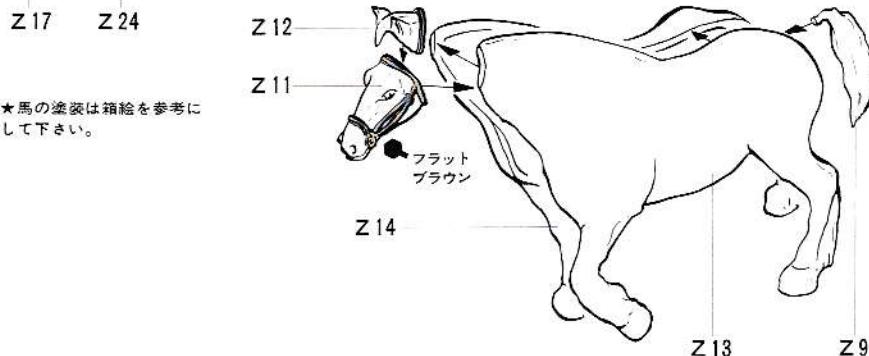


6 馬のくみため

《左側 馬》

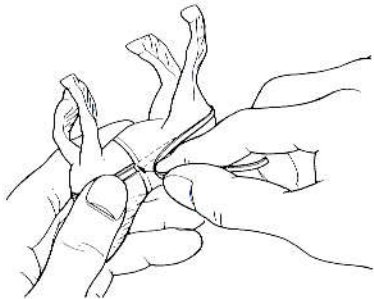


《右側 馬》

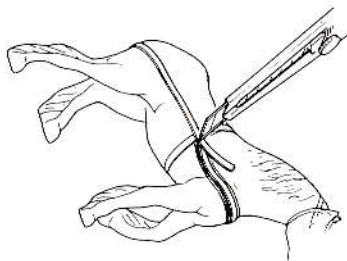


★ 馬の塗装は箱絵を参考にして下さい。

★Aから順にブラ板をはってゆきます。
⑦を参考にはって下さい。



★余分のブラ板を切りとります。



《馬のとりつけ》



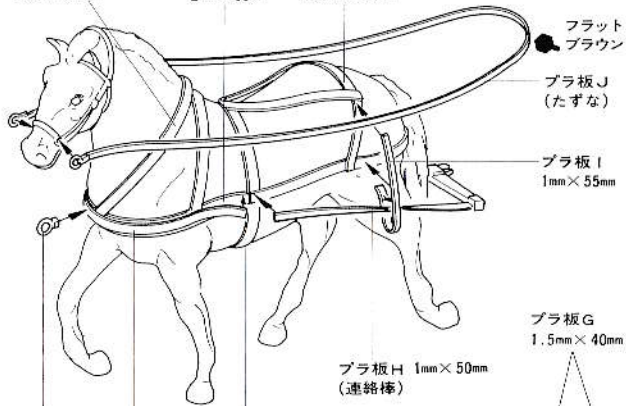
7 馬具のとりつけ

★Aから順に接着してゆきます。

ブラ板D
1.5mm×60mm

ブラ板B
2mm×65mm

ブラ板F
1.5mm×45mm



★2頭とも同じようにブラ板をはって下さい。

●馬具はフラットブラウンで塗ります。

箱絵を参考にアクセントをつけて下さい。

Z1

ブラ板C
1.5mm×130mm

ブラ板A
1.5mm×75mm

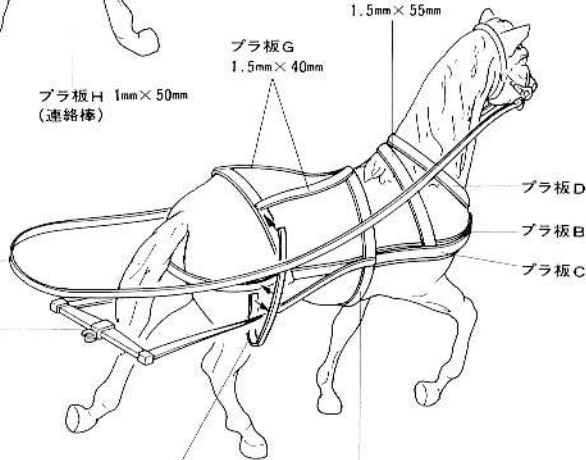
ブラ板H 1mm×50mm
(連絡棒)

ブラ板G
1.5mm×40mm

ブラ板E
1.5mm×55mm

たずな

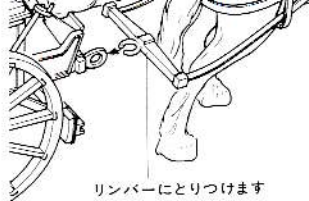
連絡棒



★左図を参考にとりつけて下さい。

ブラ板I
1mm×55mm

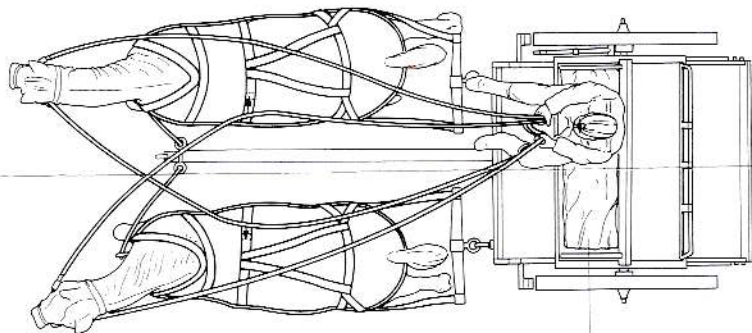
ブラ板A



リンバーにとりつけます

8 馬のとりつけ

★左図を参考にとりつけて下さい。



Z10の上に人形をすわらせませす

● バフ

9 アクセサリーパーツのとりつけ例

フィールド
グレイ

● A21 牛乳カン A20

ガンメタル
銃床 レッドブラウン

● Z5

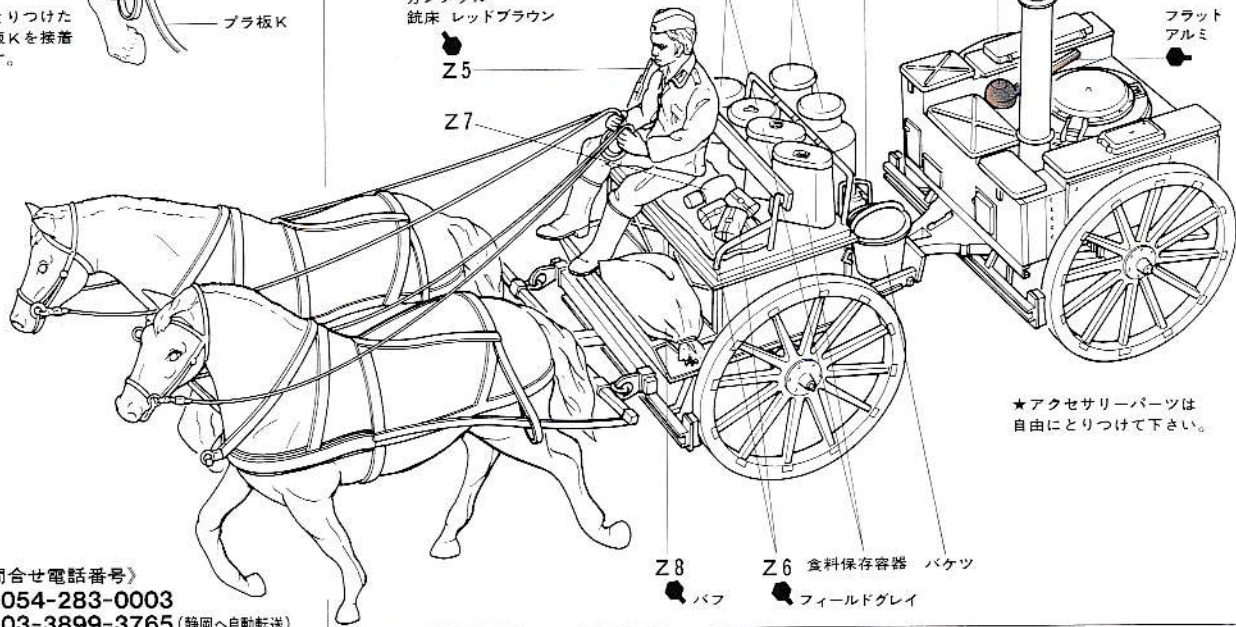
Z7

Z3

フラット
アルミ

④でとりつけた
プラ板Kを接着
します。

— プラ板K



★アクセサリパーツは
自由にとりつけて下さい。

《お問合せ電話番号》

静岡 054-283-0003

東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)